

## 共同研究グループ活動報告（2007年度）

### 日中関係史

グループ員を中心にして昨年から学内共同研究助成を受けて行ってきた「戦前中国・朝鮮における日本租界の研究」は、今年も引き続き中国現地での調査をし、ワークショップを開催した。詳しくは共同研究の報告を参照していただきたい。また、従来科研費を得て行ってきた中国人日本留学史の共同研究は、06年で受給が終了したあとも関心を日本人中国留学史へと広げて継続しており、今年は『中国研究月報』07年8月号、9月号の「中国人日本留学史・日本人中国留学史特集」に論文を発表した。グループ員に限って論文名を上げると次の通りである。

川島真「日本占領期華北における留日学生をめぐる動向」（8月号所収）

孫安石「戦前の外務省の中国への留学生派遣について—明治・大正期を中心に—」

大里浩秋「在華本邦補給生，第一種から第三種まで」（以上9月号所収）

以下は今年開いた講演会の一覧である。

1. 4月25日，楊曉氏・遼寧師範大学教授「中国教育史研究の現状および中国人日本留学について」
2. 6月12日，今井美樹氏・二胡奏者，藤枝貴子氏・アルパ奏者「二胡とアルパ 2つの音色」演奏と講演
3. 6月20日，早川秀樹氏・多文化まちづくり工房代表，本学中国語学科卒業生「外国籍住民と共に生きるまちづくり—横浜いちょう団地からの報告」
4. 7月4日，張玉娟氏・上海浦東新区駐在日本経済貿易事務所所長，元本学研究員「上海浦東新区の経済発展計画について」，半澤健市氏・本学歴史民族資料学博士「財界人の戦争認識について」
5. 11月21日，楊中美氏・本学非常勤講師「中国共産党第17回大会と日中関係の今」

（大里浩秋）

### 文化のかたち

活動内容：

今年度は、メンバー各自が自身の研究対象に対する調査・考察を深めていった。2月（あるいは3月）に研究会を行い、今年度の各自の成果を報告する予定である。

今後さらに研究活動を活発化させ、叢書としての『文化のかたち』第二弾をまとめていく方針である。

（堤 正典）

## 西洋文化の受容 ——思想と言語

1. テーマ：近代日本における西洋文化受容の総合研究
2. 代表者：鈴木修一
3. 活動内容：5年間をかけて読み続けてきた『明六雑誌』の成果を、本研究所叢書 20号『明六雑誌』とその周辺——思想と言語』として出版した。(2004年度)  
その後、新たに近代初期の洋学資料を読む計画をもっているが、本年度は休会という状態であった。来年度は、再出発を期している。

(鈴木修一)

## 物語研究

1. 研究テーマ：物語の構造分析，歴史叙述と文学
2. 代表者：日高昭二
3. 活動内容：昨年の活動報告にも記したが，研究会のメンバーの大半が2005年に学内で採択された「共同研究奨励助成」と重なるため，研究会等は開かれていない。今年度も，共同研究「〈表象〉としての日本」の研究会への参加を呼びかけてきた次第。それも2008年3月で一応終了するので，2008年4月以降の計画については，メンバーとあらためて協議したうえで，活動を再開したい。

(日高昭二)

## 2007年度【各国地方史の比較的研究】

本共同研究グループは世界史を現存する国家，民族，文明というレベルで考察するのではなく，地方史という地域概念から見直すことを研究テーマとして取り上げ，年に数回の研究会を開き，中国研究者と他分野研究者の発表を行なうことを目指している。

しかし，今年度には十分な例会活動を行うことができず，1回の例会を開催できたのみである。

(1) 2008年1月17日 例会

1. 「スイスで見た地方史」 吉田隆（元神奈川大学職員）
2. 「中国について考えていること」 小林一美（元神奈川大学教員）  
2007年度で神奈川大学21世紀COEプログラムと学内共同研究「中国における日本租界」が終了するので，2008年度には休眠状況を脱け出し，活動化させたいと思っている。

(孫安石)

## 人文研究所共同研究グループ活動報告

1. 自然観研究班

2. 2007年9月26日(水), 17-216室,  
岩崎豊太郎・神奈川大学名誉教授による「ワーズワスと自然」という演題での研究発表。
4. 2000年度から, 毎年1, 2回の講演会を開催してきたが, 07年度から各メンバーによる研究発表を  
始動させた。9月の研究発表の後で, 研究班の今後の活動予定について, 活発な意見交換がなされ  
た。叢書へとまとめて行く総意が再確認され, 当日の出席者全員のそれぞれのテーマが明示され  
た。  
2008年度は何人かの研究発表会を実施し, 叢書として実現される方向へ進みたい。  
以上(文責: 佐藤夏生)

## 共同研究グループ活動報告

1. 色彩と文化
2. 当研究グループは, 2007年度奨励共同研究助成金を得(課題名 世界の色の記号に関する実証的  
研究—自然・言語・文化の諸相—), 活動の本拠をそちらに移した。テーマもメンバーもほぼ重な  
っているため, 「色彩と文化」の研究活動報告については割愛したい。  
(三星宗雄)

## 横浜研究

1. 横浜研究—横浜における多文化共生社会の創出に関する研究
2. 活動内容  
本年度は研究成果をまとめる活動に専念した。2008年2月に, 人文研究所叢書として刊行予定で  
ある。  
(横倉節夫)

## 研究グループ: 言語変異研究

代表: 彭国躍

研究活動:

1. 資料収集: 『国家図書館蔵敦煌遺書』(25～43巻), 『俗文学叢刊』(継続), 『冊府元龜』(宋)(12巻)
2. 講演活動: 「近代中国語の敬語と人間関係」講師 Daniel Zoltan Kadar (Eotvos Lorand University)
3. 執筆活動:  
「現代上海の路名と社会—命名の社会言語学」  
「日本語の概念カテゴリーの習得と誤用—中国語による認知構造の母語干渉」
4. 研究発表:

「中国語社会語用論の通時的研究—「年齢質問」発話行為の事例分析」(2007年度日本語用論学会)  
「上古中国語の副詞型敬語の研究『神奈川大学言語研究』(特別号)(2007年度)  
「漢代鄭玄が訓釈した古代中国語の対人関係機能について—歴史語用論のアプローチ」  
『語用論研究』(2007年度)日本語用論学会

## ジェンダー・ポリティクスのゆくえ

メンバー同士で共通テーマを模索する討議を行ったほか、以下のような研究会を開催した。

### ①「ニキ・ド・サンファルと増田静江——DVD『わたしのニキ』を観て」

日時：2007年5月30日(水)16:30～19:00

場所：20号館113教室

内容：期待される女性として生きなければならなかった上流階級の暮らしを捨てて、おおらかな作品を創作した、イタリアの造形作家ニキ・ド・サンファルに魅せられた増田静江さんが、94年に那須の別荘地に建てたニキ美術館と、ニキと同じような境遇だった増田さんが描かれているDVDを観て、話し合った。

### ②「ワーキングガールから遺産相続人へ——Laura Jean Libbeyのロマンスをめぐる」

日時：2008年1月23日(水)17:00～19:00

場所：17号館22号室

報告：山口ヨシ子(外国語学部)

内容：生涯に80冊以上の小説を書き、1000万部から1500万部を売りつくしたベストセラー作家Laura Jean Libbey(1862～1924)の作品のうち、とくに女性が賃金労働につくことを讃えた小説群に着目し、労働者階級向けのワーキングガールを主人公とするロマンスがどのような影響のもとに生みだされたかを検討した。さらには、厳しい労働に長時間耐えていたワーキングガールがどのように読まれ、受け入れられていたかを、同時代の小説や自伝などを手がかりに考察した。

(入江直子)

## 1. 共同研究グループ名：コミュニケーション研究会

## 2. 活動内容

メンバー：

- 三星宗雄(人間科学部 教授)
- 古屋喜美代(人間科学部 教授)
- 松本安生(人間科学部 准教授)
- 坪井雅史(外国語学部 准教授)
- 富谷玲子(外国語学部 准教授)
- 師岡淳也(外国語学部 准教授)
- 杉本 崇(人間科学部 非常勤講師)
- 大高瑞郁(人間科学部 非常勤講師)

活動内容：

直感的・感情的な人間の意識と行動は、利己的・合理的な前提に基づいて想定されている人間社会においてポジティブとネガティブの両面で様々な影響を及ぼしている。近年の教育からマーケティングまでに及ぶコミュニケーションの研究はこうした多面的な人間の意識と行動を理解し、それらを前提とした方法論の構築が求められている。この共同研究グループでは、こうした背景のもとで、コミュニケーションに関連する学際的な既存研究における到達点を明らかにするとともに、今後の課題と方向性を明らかにすることを目的とする。

このため、研究会ではメンバー及び外部の研究協力者とともに、毎回のテーマに沿った既存研究のレビューを行い、その結果をもとにそれぞれの研究の位置づけやその特徴、独創性、先進性などについて議論を行った。

(松本安生)

## 植民地近代性の国際比較

本研究グループは本年度に発足した新しい研究組織である。本年は以下の2回の研究会を開催した。

第1回研究会：

開催日：2007年5月27日（水）

場所：17号館401号室

報告者：尹慧瑛（一橋大学COE研究員）

報告テーマ：「北アイルランドという〈場〉——ポスト植民地主義／紛争の諸課題」

第2回研究会：

開催日：2007年12月5日（水）

場所：17号館401号室

報告者：泉水英計氏（神奈川大学経営学部）

論題：「1970年：沖縄と障害者による二つの反「復帰」思想について」

(文責：永野善子)